ぺた語義

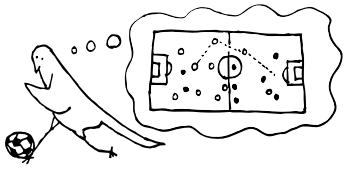
【第 30 回】

contents

［コラム］
サッカー型人材育成・考
…下房地毅

［解説］
情報専門教育における質保証に関する活動
―2012 年度優秀教育賞を受賞して―
…掛下哲郎

応般 Column



サッカー型人材育成・考

スポーツ白書（笹川スポーツ財団発行）によれば，我が国の団体競技人口は野球とサッカーがそれぞれ約 740 万人で上位を占めている．男子小学生では野球 25%に対してサッカー 22%，高校生では野球人口 16.7 万人に対してサッカー人口 15.7 万人と，近年サッカー人口が急増しているようである．

筆者は，IT 人材に求められる行動特性の評価基準を検討する取り組みを行っており，人間力が明確に発揮される団体スポーツでの行動特性について，この 2 種目を比較してみた．個人的な意見だが，サッカーは攻守が瞬時に切り替わる連続性，野球は攻撃と守備が明確に区分されるプレースタイルの違いから，行動基準は対極にあるものが多いと感じている．人材育成の重点項目と考えられる 3 項目に絞って例を示す．以下，（サ）はサッカーを，（野）は野球を示す．

・課題解決力　（サ）戦術を立案し，グラウンド全体を見通す広い視野と局面を打開する勇気・突破力
　　（野）ヒットを打つためのピッチャーとの戦い（3 割のヒット率で優秀），相手の進塁を防ぐ予測行動
・役 割 認 識　（サ）FW・DF の攻守両面の柔軟な役割交代と状況に応じた補完行動が求められる
　　（野）ヒットエンドラン，送りバントなどの固定的役割を確実に果たすことが求められる
・主　体　性　（サ）パスかドリブルかの自己判断，戦術の共有とパスの信頼，MF の選択肢と周囲との協働
　　（野）監督の指示による組織行動重視（フォア・ザ・チーム），セオリーに則った確率行動

従来の人材育成モデルは野球型が中心であったように思う．組織の成功体験を効率的に再現・拡大するためにセオリー通りに行動することが基本にあったからである．しかし，新たなビジネスモデルやイノベーションを創造する人材となるためには，サッカー型の個人行動が適している場面が多いのではないだろうか．機会と脅威は隣り合っているし，ビジネス・フィールド全体を見る視野の広さと戦術が個人に求められるからである．これは組織力に頼らない，卓越した個人・ファンタジスタの特性のように思われる．

サッカーの王様ペレ．16 歳でワールドカップに出場し，23 年間の選手生活で 1,281 ゴールを挙げた史上最高のプレイヤと言われている．しかし，彼のサッカーの真骨頂はパスにあるという．相手が受けやすい角度・回転とスピードで送り出すパスは「魂のパス」と言われ，チームメンバの能力を相乗的に引き出した．ゴールへの予期せぬデザインを描いて，周囲と協働して決定的な仕事をするのがファンタジスタである．イノベーティブな高度 IT 人材と共通するものが多いように感じている．

下房地毅（（独）情報処理推進機構）

ロゴデザイン ● 中田 恵　　ページデザイン・イラスト ● 久野 未結

ぺた語義は pedagogy（教育学）を元にした造語です．常設の教育コーナーとして教育や人材育成に関する記事を広く掲載しています．ぺた語義に掲載された記事は，情報処理学会 Web ページの「教育・人材育成」からどなたでもご覧いただけます．